

1. 活動報告（事務局 記）

- 10月3日（水）鵜の島小学校1年生38名（松本先生担任）の皆さんがビオトープに見学に来られました。須賀河内川内の魚とりや昆虫の採取にわれを忘れて走り回って楽しめました。街中は川が無く、子ども達は特に楽しんだとの松本先生が言っておられました。今井会長、田村副会長、原田マにて案内しました。
- 10月7日（日）参加者20名
 - ① 稲刈り準備の有害獣防除柵取り外し、田んぼ周囲、池、止水池須賀河内川側草刈り
 - ② 水車水洗 林武会員ポンプにて
 - ③ 「蛭の成育」について勉強会（講師）関根会員
 その他
- 10月8日（月）『葦の会』秋の野外自然観察会、松原会員が引率し、原田事務局長が対応しました。
- 10月13日（土）10月第三土曜日の計画であった稲刈りを熟成度を考慮し本日もち米の刈取、はぜかけを行ないました。今年は台風の被害もなく天候にも恵まれ、また今年から始めた合鴨による自然環境にやさしい稲作作りでしたが害虫にもおかさねず素晴らしい収穫となるようです。里山自然観察隊から11名及び9家族と二俣瀬小学校の校長先生他生徒14名及び保護者5名とつくる会会員26名 総勢66名にて1時間30分であつと言う間に終わりました。天日乾燥を約2週間行い、脱穀と臼挽き精米をして12月1日（土）待望の餅つきです。本日参加された方大変ご苦労様でした。
- 10月14日（日）徳山岐山館カルチャーグループの4名の方が松原会員の引率で見学
- 10月19日（金）来る11月11日は「水と里山の環境ツアー」で受け入れ（講師、場所整備）の話は前回の活動日にも申し上げましたが昨日“遊ロード”の調査をし、本日整備を行ないました。参加者は今井会長、原田副会長、吉富匡会員、西原会員、車地大空さん、原田マにて10時から12時30分まで実施しました。特に天つつみ上沼のジュンサイ自生地を見ていただくため大掛かりな通路確保を行ないました。
- 10月20日（土）午後の里山自然観察隊は森の探検でした。隊員7名、保護者6名、会員指導者6名で、遊ロード昭和山から一里塚まで行って、ビオトープへ戻りました。見つけた木の実は32種類、キノコは6種類でした。クリ・スダジイ・アケビは沢山採れました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

11月11日（日）水と里山自然環境探訪ツアー

11月13日（水）中、四、九環境先進交流会御一行 今井会長ご案内
日付未定 青年会議所環境学習 100名程度遊ロードからビオトープ

◎ 行事

- 10月24日（水）稲こぎ予定
- 11月 3日（土）ソバの刈取り予定
- 11月10日（土）午後 里山自然観察隊（里山の暮らし）
- 11月11日（日）保全活動（エコアップ、草刈りなど）
- 11月13日（火）交流会御一行との懇談会
- 11月24日（土）保全活動

3. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

今月は松原会員の引率による他のグループの声などなので、別の項目で記載します。

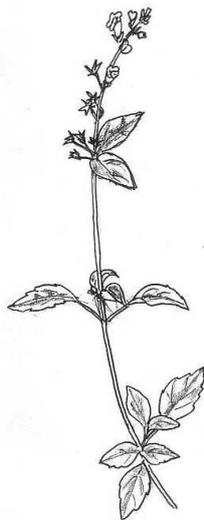
4. ビオトープ関連 (ビオトープ周辺の植物) 美濃和 信孝

ヒメナミキとヤマハッカ

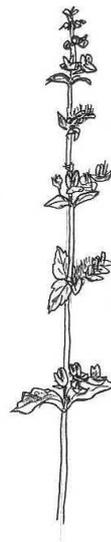
秋に咲くシソ科の草花2種を紹介します。

ヒメナミキはタツナミソウ属の多年草で、漢字で書くと姫浪来、同じシソ科の浪来草の小型版ということでこの名前がついています。ナミキソウは、その名のとおり、波が来そうな海岸に生える草ですが、ヒメナミキの方は湿地に生える植物です。今年はビオトープの湿地であちこちに群落をつくっています。7mmほどの小さい白い花なので一つ一つは目立たず地味ですが、たくさん群れて咲いているようすは結構目立ちます。ヒメナミキが属するタツナミソウ属は、萼の形が特異で、上下の2唇が2枚貝のようになっており、果実が熟すと上唇だけが散り落ち、このとき残った下唇が小皿状になります。他のタツナミソウの仲間は花冠が湾曲して立ち上がり、それこそ立浪のごとくなりますが、このヒメナミキはまっすぐで、他のシソ科の花と同じです。ビオトープでは普通に見られますが、全国的に見ると減少傾向にあり、例えば東京都では絶滅、四国の3県でも絶滅危惧I類など、23の都府県で絶滅危惧種に上げられています。山口県内でも、湿地であればどこにもあるという草花ではないように思います。大切にしたい植物の一つです。

道の斜面に印象的な青紫色の花を付けているのがヤマハッカです。ハッカという名前はついていますが、ハッカの香りはなく、シソ科ヤマハッカ属の多年草です。9月下旬から10月にかけて大きな群落をつくって咲くので、どなたも目にしたことがあると思います。一見似ているアキノタムラソウとは、葉が単葉で花を片側に付けることで見分けます。アキノタムラソウの葉は3~7枚の羽状複葉、花は輪生します。また、咲く時期がアキノタムラソウは名前とは裏腹に7月に咲き始め、秋本番には終わってしまいますが、ヤマハッカは10月が花の中心シーズンです。日当たりの良い斜面を好む植物で、農道沿い、田んぼの裾斜面などが生育適地です。夏の終りに刈り込んだほうがこの草にとっては生育に都合が良いようで、しばしばヤマハッカだけの大群落ができていたりします。逆に草刈りをせず放置すると、ススキなど背の高い草に覆われてこの花は咲かなくなってしまう。ヤマハッカが咲くということは、適度な自然の管理が行なわれているということの証で、農作業の手入れが副次的に秋の彩りをもたらしている良い事例です。



ヒメナミキ (シソ科)



ヤマハッカ (シソ科)

5. 他のグループの見学（東屋のノートより）

① 10月8日（月・体育の日）「葦の会」秋の野外自然観察会

「葦の会」6名が参りました。10:30～14:00（雨のち曇り）

「葦の会」は、阿知須のきらら浜自然観察公園で活動している、ボランティアグループです。通常は公園内で活動していますが、有志を募り、野外での自然観察会も実施しています。（今回はビオトープをつくる会の会員でもある松原が自然観察会の場所として提案したものです。）

引率者（松原）以外は、みなさん初めての来訪です。湿地性植物をはじめ植生が豊かで、みなさんの足が進みませんでした。“すごいね”“いいね”“2号線からすぐの所に、こんな所があるんですね”というのがみなさんの印象です。

原田事務局長には、ご多忙のところビオトープまでご足労願ひ挨拶をいただきました。発足の経緯や、現状、普段の手入れの重要性、そして“里山”と名の付くゆえの楽しさ（田植え、もちつきなどの作業）を話していただきました。ありがとうございました。参加者（＝来訪者）6名は、とてもいい気分でビオトープを後にしました。

（特記する生き物）①メスグロヒョウモン、②クロコノマチョウ、③アサギマダラ、④カラスヘビ
（松原 記）

② 10月14日（日）徳山岐山館カルチャーグループ

光市・周南市より、4名の方が来訪されました。10:15～12:30（くもり）

・大変よい勉強になりました。同時にすばらしいビオトープの管理に感激いたしました。貴重な植物、珍しい植物、教材生物等も多くあり、すぐれた学術園、教材園にもなると思いました。

（南 敦（みなみ あつし）光市在住）

・きれいになって、トチカガミ、デンジソウ他、水生植物がたくさん。のんびり出来て楽しませていただきました。（周南市 岡村 敏子）

・自然にひたることが出来、とても良い気分でした。アイガモが可愛かったです。（周南市 井村 淑子）

・沢山の自然があって幼き頃を過ごした頃を思い出しました。しっかり子供さん達に伝えていきたいですね。（周南市 馬場 邦子）

本日は、上記のように、南先生を始めとする四名の方をご案内いたしました。岡村さん（周南市）の紹介です。10月8日に実施した山口県立きらら浜観察公園のボランティアグループ『葦の会』の自然観察会に岡村さん（周南市）が出席したことが、縁となりました。上記の3名の方々は、周南市の徳山岐山館カルチャーグループの学習グループの会員さんであり、南先生は植物関係の先生をされているのです。南先生は、山口県内においては著名な植物学の第一人者であります。

10月8日の「葦の会」の自然観察において、大感激された岡村敏子さんが、その感激を共有しようと、カルチャーグループの先生と生徒を連れて来てくれたという次第です。

南先生からは、以下のようなコメントがありました。（*ビオトープをつくる会のみなさんは、すでに承知されていることばかりだと私（松原）は思いますが…。）

（1）山口県内ではとても少なくなったものが、ここにあるもの。多いもの。

①アギナシ、②アサザ、③デンジソウ、④トチカガミ、⑤ミズアオイ、など…。

（2）すぐ増えるので、数量コントロールが必要なもの。

①カサスゲ、②ガマ、③コウホネ、④ツルヨシ、⑤ミズチドメグサ、等々…。

4人の方たちは、大満足で帰られました。午後も、次の目的地で観察予定がおありのようでした。なお、10月12日（金）に、岡村さんより、『南先生に二俣瀬ビオトープのことをお話したら、とても興味を持たれ、10月14日（日）に訪問したい。については、標本用に植物をいただく必要があるが、事前に了解を取り付けておいて欲しい』旨の電話があり、同日夜、原田事務局長に連絡を取り、了解をいただきましたことを付記しておきます。（松原 吉雄 記）

6. 里山自然観察隊 (10月20日、隊員7名、保護者6名、会員6名)

森の探検

遊ロード昭和山から一里塚まで行って、ビオトープへ戻りました。見つけた木の実には32種類、キノコは6種類でした。クリ・スダジイ・アケビは沢山採れました。

食べた木の実：スダジイ、クリ、アケビ、エビヅル、フユイチゴ、ガマズミ、アキグミ

その他の木の実

赤い実：ソヨゴ、ウメモドキ

黄色～茶色の実：ピラカンサス、キツタ、カキノキ、サルトリイバラ、ノイバラ

黒い実：ヒサカキ、アオツツラフジ、クロキ、ネズミモチ、イヌザンショウ、ゴンズイ、ナツハゼ、カクレミノ

紫色の実：ムラサキシキブ

堅果：コナラ、アラカシ、チャノキ

球果：アカマツ、ネズ(ヒムロ)、ヒノキ、スギ、オオバヤシャブシ、ヒメヤシャブシ

キノコ：シメジのなかま、カワラタケ、サルノコシカケのなかま、ドクベニタケ、ホコリタケ(オニフスベ)、ヒイロタケ

(美濃和 信孝・西原 一誠 記)

7. 会よりの連絡事項 (事務局より)

① 11月の活動日は二俣瀬地区の宇部まつり参加と文化祭があり変更しています。注意してください。

② 活動報告で記載しました鶉の島小学校1年生のみなさまから、お礼のお便りを頂いております。

17名の楽しかった感想文です。一人一人の感想文を載せればよいのですが、まとめて報告します。

現地で教えた虫の名前や魚、草の名前を憶えた事や、魚とり、虫取りが大変楽しかった事を書いてくれています。今井会長、田村副会長、と原田マで案内したのですが、いずれも「ビオトープのおじいちゃん」でなく、**おじさん** になっていましてほくそ笑むしだいです。

欲を言えばもう少し時間を頂き一緒になって騒ぐ事が出来たら、子ども達ももっと多く思い出が作れたのではないかと思います。

8. 編集後記

日曜日(21日)の昼間、稲刈りの終わったビオトープを訪れました。今は珍しくなった“はぜ掛け”、土手のススキを見ると、秋の里山という雰囲気です。耕作放棄田を形態はどうであれ、ビオトープとして維持できるのは嬉しいかぎりです。これを可能としている要因の一つに、山陽側の都市近郊という立地条件があると思います。山陰側の過疎地では成り立ちません。

私はこの夏、土砂災害危険区域を調査するため、萩の三見に数週間、通いました。航空写真で土砂災害の危険ある人家を抽出し、地上で確認するのです。しかし、対象となった人家の半分は、人が住んでいない廃屋でした。荒れ具合も様々で、まだ生活の匂いの残っているものから、潰れて屋根しか残っていないものまで。廃屋の展示場と例えてもいいくらいです。誰もいない山中で、荒れ果てた家屋そして耕地を眺めるのは、気持ちのいいものではありません。昔は、ここにも家族の営みがあり、子供の歓声があったであろうことを思うと、なぜか背筋が寒くなりました。

最近、NHKなどで、中山間地域・限界集落などが取り上げられる機会が増えました。過疎と高齢化が、より深刻になっているのでしょう。このような地域で、若い人たちが容易に自立できるような社会になればよいのですが。私に出来ることといえば、財布の許す範囲で、国産品を愛用することぐらいです。

(前田 歳朗 記)